



「強風による建築物等の疲労損傷問題の現状と展望（6）」

趣旨：非常に稀な地震、台風、竜巻等による激甚災害における建築物、構造物の被害は顕著なため、設計に際しては、最大荷重に関心が向かいがちです。しかし、継続的に受けているダメージの蓄積が構造物の耐力低下につながる疲労損傷問題は、歴史的に見ても構造物の設計において重要で、忘れてはなりません。構造物の大型化、複雑化に伴って、被害要因も複雑化し、疲労損傷の蓄積がどのような形で被害となって顕在化するか予想が困難です。安全保障や資産の保全という意味を含めて、社会資本としての既存構造物や、今後建設される新たな構造物の疲労損傷を含めた安全性のパフォーマンスを検討することが重要であるという問題意識に基づき、特に継続的で作用時間の長い、風応答による構造物・部材の疲労損傷問題を、さまざまな構造物や部位、材料について検討したいと考え、公開研究会を企画しました。本研究会は2014年に第1回を開催し、本年度で6回目の開催です。ご関心のある方の参加をお願い申し上げます。

大熊武司（神奈川大学名誉教授）

主催：東京工芸大学 風工学研究拠点
（文部科学省 共同利用・共同研究拠点）

後援：一般社団法人日本免震構造協会（予定）、
一般社団法人日本建築学会（予定）

開催日時：2019年2月4日（月）13:00～15:00

開催場所：田町スクエア 会議室（G）（日本建築学会 建築会館の隣ビルです。）

参加申込：下記に、ご氏名、ご所属、連絡先をお送りください。

問合先：東京工芸大学風工学研究拠点 事務局 TEL：046-242-9658

プログラム(敬称略) **(講演者都合により変更することがあります)**

- | | | |
|-------------|-----------------------------------|------------------------|
| 13:00～13:25 | 【招待講演】建築物の減衰評価に関する動向 | 中村 尚弘（広島大学大学院） |
| 13:30～13:55 | 長周期地震動に対する繰り返し荷重効果の評価の実務（仮） | 吉江慶祐（日建設計） |
| 14:00～14:25 | 免震構造の風応答観測と数値計算結果の比較（仮） | 佐藤 大樹（東京工業大学） |
| 14:30～14:55 | 地震および強風による累積疲労損傷を考慮した免震装置の設計手法（仮） | 団栗 直希，西嶋 一欽（京都大学防災研究所） |
| 14:55～15:00 | まとめ | 松井 正宏（東京工芸大学） |